

報告要旨

2023/07/28 (金) 13:00～17:15 (オンライン開催)

研究会「インターセクショナリティとジェンダー視点の主流化-バングラデシュ地域研究から」

発表タイトル：「手工芸品生産工房からみるパルダ実践と公的空間の複数性」

発表者：鈴木亜望（神戸大学）

本報告では、バングラデシュの首都ダカの手工芸品生産工房で働く女性たちのジェンダー空間をめぐる実践に関して、インターセクショナリティの視点を用いて分析することで、バングラデシュの女性をめぐる「公的空間」の複数性を検討した。バングラデシュでは、女性の行動規範についてはパルダと呼ばれる男女を隔離するジェンダー規範が参照点とされ、女性はウチ、男性はソトでの活動を行うものとされてきた。こうしたジェンダー規範を変化させたと思われる、輸出向け縫製工場での労働は、特に若い未婚の女性たちを「公的空間」へと進出させたかのように見えるが、彼女たちはパルダの下で、男性と同じ場所で働くことや、セクシュアリティの観点から、社会的な緊張下におかれる。一方で、手工芸品生産工房では、女性たちは工房を「女性たちの場」として自分たちの安全な場として認識する。同時に、女性たちの工房は、世帯内の家事労働とも異なるものとして、イエの外の自立した就労として認められることで、女性の活動領域を広げている。こうした、従来のパルダ概念の二分法では見えてこない、インターセクショナリティを用いたジェンダー空間の拡大の可能性について論じた。